

E 3 シングルス——日米の比較考察——
日本音楽高 杉山 寿

目的 近年、欧米のみならず日本の国勢調査においても、シングルス——一人暮らしの増加傾向は顕著である。本研究は、1950年以降の我が国のシングルス増加傾向をアメリカとの比較において捉え、特に若い世代の増加傾向の持つ意味を、家族形成との関連より明らかにすることを目的としている。

方法 日本及びアメリカにおける国勢調査の生データの分析を行った。

結果 国勢調査にみられる日本とアメリカの単独世帯生活者と比較すると、①年齢構成は、アメリカが高齢主体・女子優勢型であるのに対し、日本は若年主体・男女同数型である。②年齢別人口に占める割合は、アメリカが高齢になるほど割合が高くなる三角形を示すのに対して、日本は若年男子及び高齢女子割合が突起したS字形（Singlesの頭文字でもある）を示す。③過去10年間の年齢構成の変化は、アメリカが若年化してきているのに対し、日本は高齢化傾向を示すのが特徴である。また、両国に共通する点は、若年層一人暮らし人口数の急増であった。

以上より、アメリカでは、中高年の家族形成期における一人暮らしの割合が高いのに対して、日本は、結婚前の家族形成前期に集中している。アメリカのシングルフッドが結婚に対する意味を持つた概念である一方、日本の若年層シングルス増加は、結婚前のライフステージとしての一人暮らしの定着化を示す傾向であるといえよう。